

2009年5月期(第11期)
決算補足資料
2009年7月13日(月)

本資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略等に関わる情報は、本資料の作成時点において、当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲内で為した判断に基づくものです。しかしながら、現実には、通常予測しえないような特別事情の発生または、通常予測しえないような結果の発生等により、本資料記載の業績見通しとは異なる結果を生じ得るリスクを含んでおります。

当社と致しましては、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めて参りますが、本資料記載の業績見通しのみ全面的に依拠してご判断されることはくれぐれもお控えになられるようお願い致します。
尚、いかなる目的であれ、当資料を無断で複写複製、または転送等を行わないようお願い致します。

アウンコンサルティング株式会社

- 【1】 2009年5月期 決算概要
- 【2】 2009年5月期 セグメント別実績
- 【3】 2010年5月期 通期業績予想と今後の取り組み
(巻末資料)

【1】2009年5月期 決算概要

1Q

株式会社アート・スタジオ・サンライフの株式譲渡契約締結

- ・ 国内トップレベルの多言語Web制作の実績
- ・ 「グローバル」領域における事業の拡大

2Q

情報セキュリティマネジメントシステム (ISMS) の認証取得

- ・ サービス提供において安全性・信頼性が確実、継続的に提供可能

3Q

株式会社アート・スタジオ・サンライフによる翻訳事業譲渡契約締結

- ・ 多言語マーケティングと親和性の高い翻訳事業参入により、顧客層の裾野拡大を狙う

4Q

ビートレンド株式会社との業務提携

- ・ 成長性の高いモバイルマーケティングにおける販促経路の拡大

売上高

3,795百万円 (対前年同期比25.5%減)

営業利益

78百万円 (対前年同期比87.3%減)

経常利益

83百万円 (対前年同期比87.0%減)

当期純損失

461百万円 (対前年同期比 -)

- ・ 主要クライアントの受注減により売上減少
- ・ その他クライアントは堅調に推移
- ・ のれん代等の減損損失により、当期は 461百万円の純損失

	実績		前年同期比	
	09/5期-4Q (連結累計)	08/5期-4Q (連結累計)	増減額	増減率
売上高	3,795	5,097	1,301	25.5%
売上総利益	872	1,118	245	22.0%
売上総利益率(%)	23.0%	21.9%		
販管費	793	497	+ 296	59.5%
販管费率(%)	20.9%	9.8%		
EBITDA	293	694	401	57.7%
営業利益	78	620	541	87.3%
営業利益率(%)	2.1%	12.1%		
経常利益	83	638	555	87.0%
経常利益率(%)	2.2%	12.5%		
当期純利益又は 当期純損失	461	382		
純利益率(%)		7.4%		
EPS(円)	6,385.89	5,331.34	11,717.23	

(金額単位:百万円 / %)

Point

売上総利益

- ・ 売上高の減少 1,301
- ・ 仕入の減少 +1,351
- ・ 製造原価の増加 295

当期純損失

- ・ 減損損失 559

	実績		前年同期比	
	09/5期 - 4Q (連結累計)	08/5期 - 4Q (連結累計)	増減額	増減率
流動資産	1,441	1,603	162	10.1%
現預金	966	814	+ 151	18.6%
固定資産	383	954	571	59.8%
有形固定資産	14	18	3	20.2%
無形固定資産	211	900	688	76.5%
投資その他の資産	156	35	+ 121	345.5%
総資産	1,825	2,558	733	28.7%
流動負債	373	618	245	39.7%
固定負債	41		+ 41	-
負債合計	414	618	204	33.0%
純資産	1,410	1,939	528	27.3%

(金額単位: 百万円 / %)

Point

流動資産

- ・ 現預金の増加 +151
- ・ 売掛債権の減少 401
- ・ 棚卸資産の増加 +11

固定資産

- ・ のれんの減少 631

流動負債

- ・ 仕入債務の減少 216
- ・ 短期借入金の増加 +40

固定負債

- ・ 退職給付引当金の増加 +23

	実績		前年同期比
	09/5期-4Q (連結累計)	08/5期-4Q (連結累計)	増減額
営業活動によるCF	332	257	+74
投資活動によるCF	125	968	+ 843
財務活動によるCF	72	66	6
現金及び現金同等物の増減額	132	777	909
現金及び現金同等物の期首残高	814	1,592	777
現金及び現金同等物の期末残高	947	814	+132

(金額単位:百万円)

Point

営業活動によるCF +74

現金及び現金同等物の期末
残高 +132

第4四半期売上高

前年同期比 48.1%減

第10期(2008年5月期)

第4四半期売上高

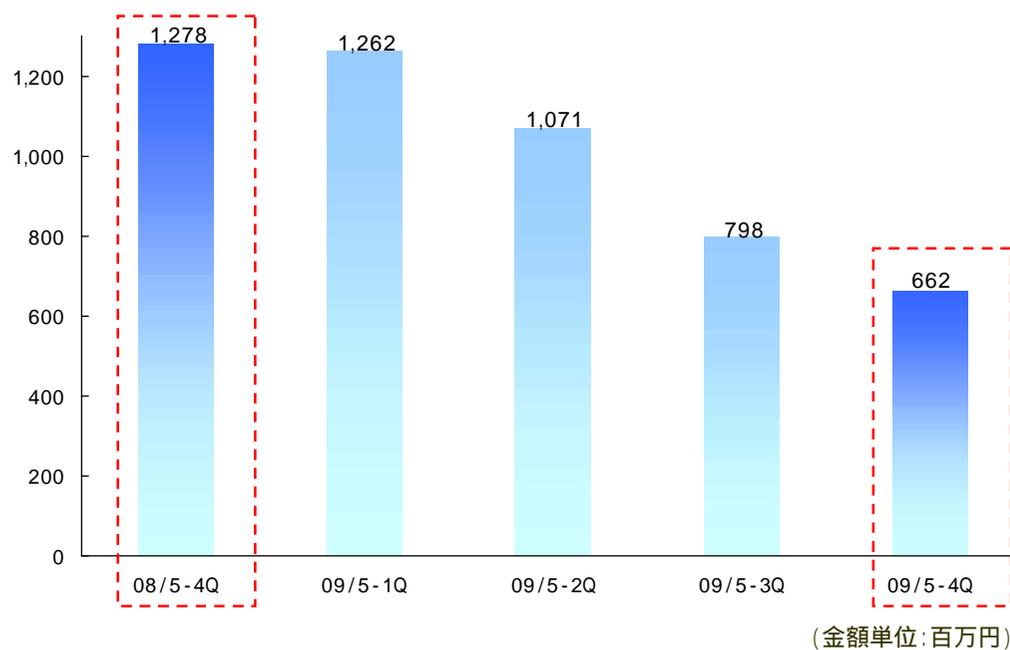
1,278百万円



第11期(2009年5月期)

第4四半期売上高

662百万円

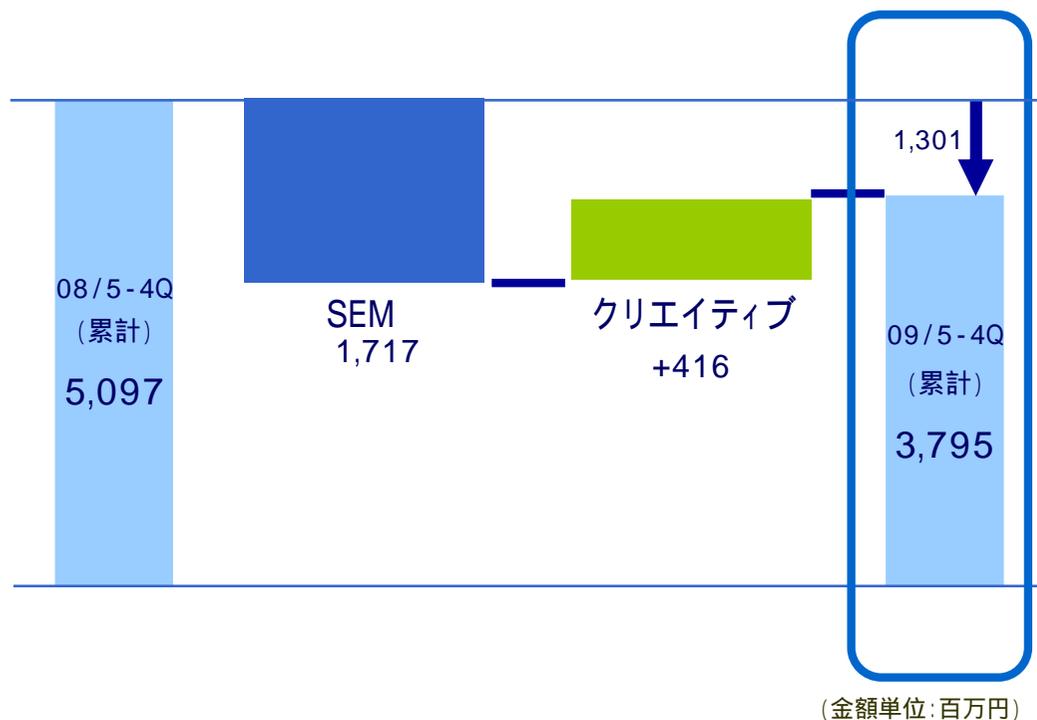


Point

景況感が急速に悪化した影響を受け、企業の広告費は引き続き削減傾向にあります。

当社の一部主要クライアントからの受注額減少により引き続き減収となりました。

売上高要因別増減分析(4Q累計)



Point

SEM事業 1,717
 主要クライアントの受注量
 減少により売上減少となり
 ました。
 クリエイティブ事業 +416

第4四半期営業利益

前年同期比 -

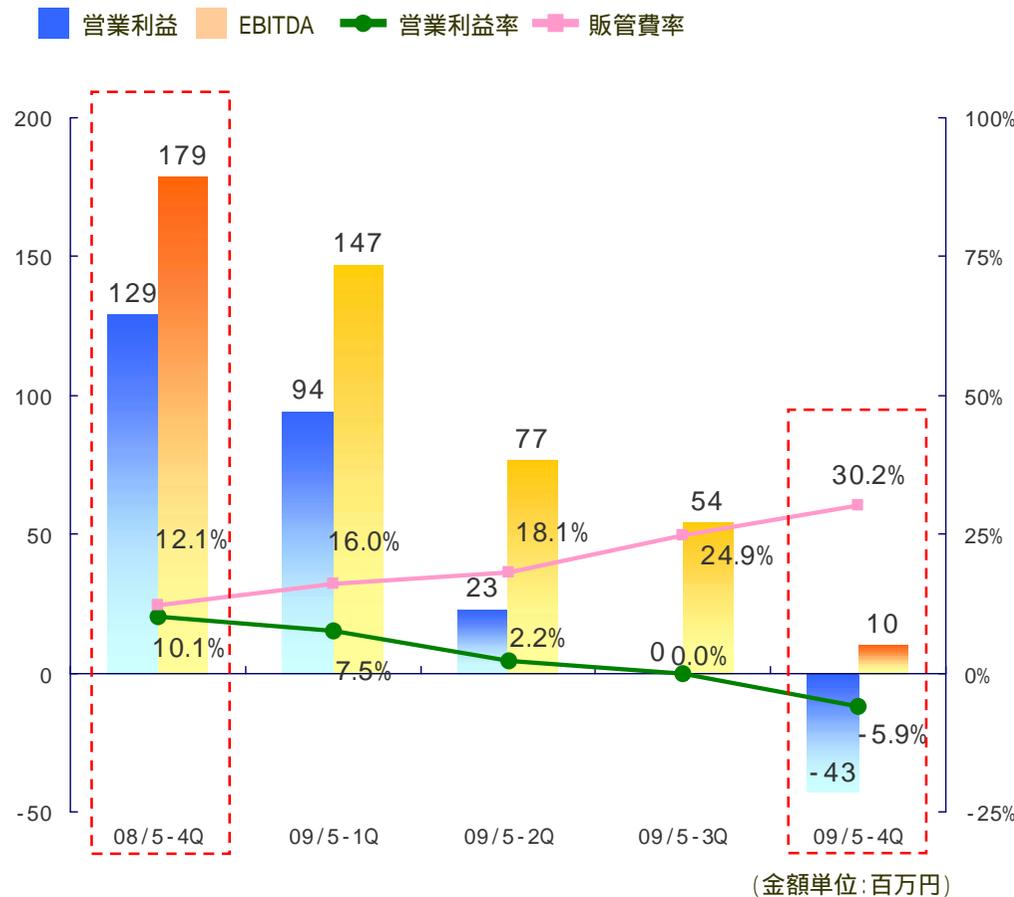
第10期(2008年5月期)
第4四半期営業利益

129百万円



第11期(2009年5月期)
第4四半期営業利益

43百万円

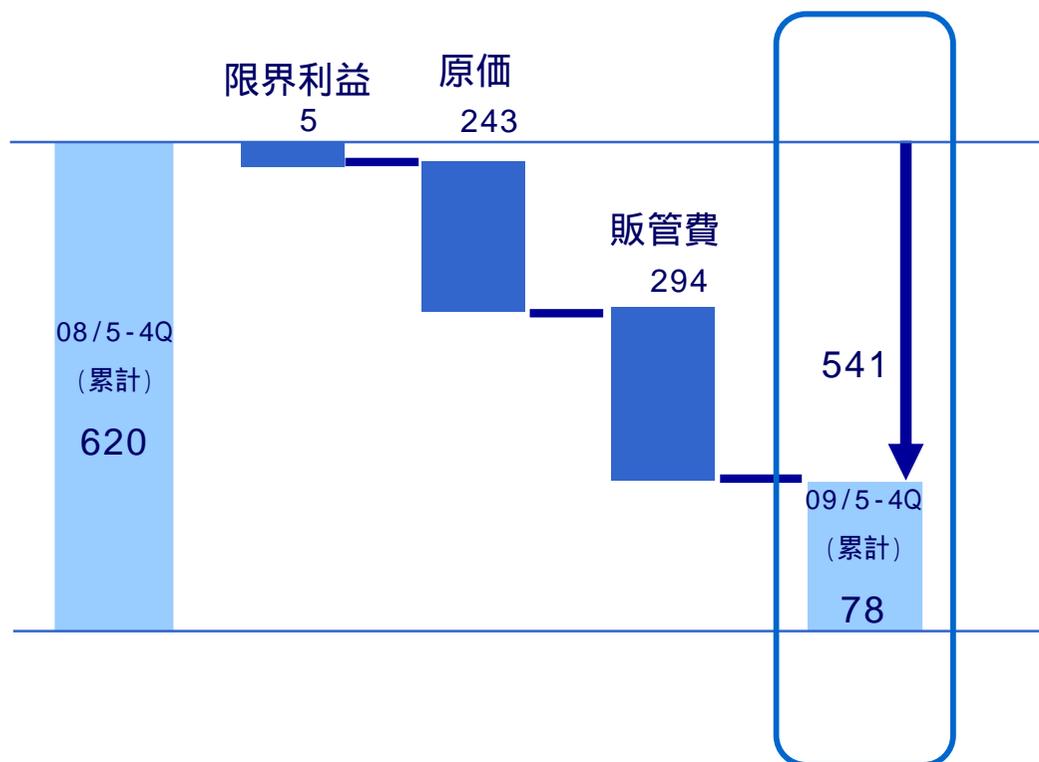


Point

売上高減少および販管費増加により、営業利益が減少いたしました。

販管費増加の主要因は、M&Aによる人員増による人件費及びのれん償却によるものです。

営業利益要因別増減分析(4Q累計)

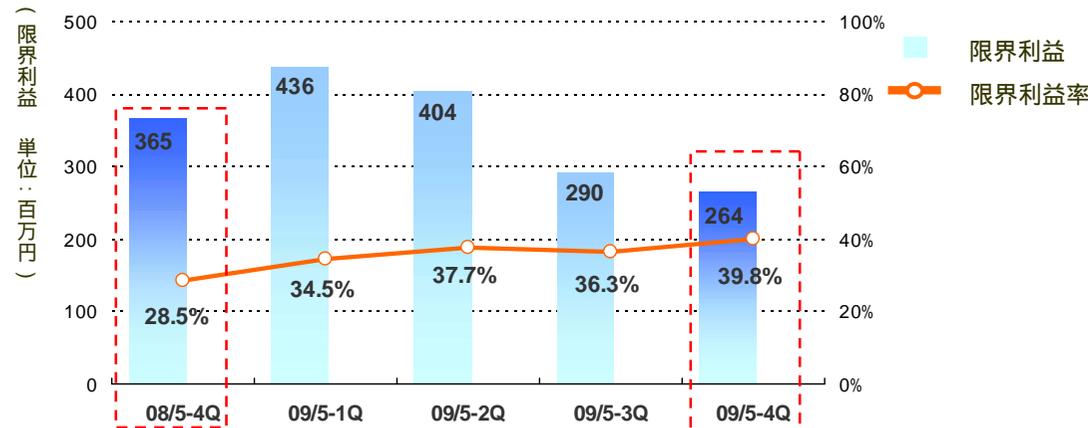


(金額単位:百万円)

Point

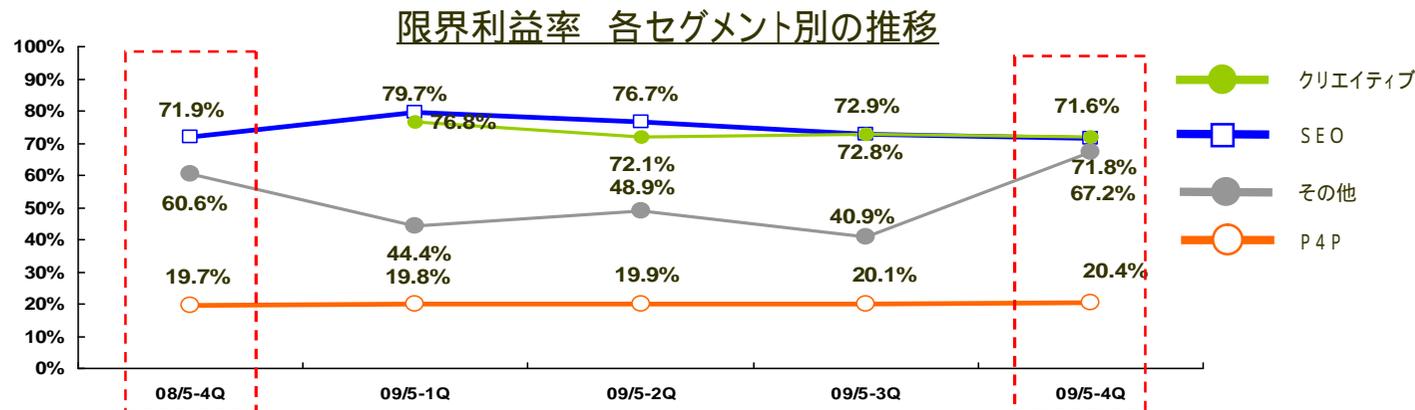
限界利益 5
 売上の減少に伴い、
 限界利益も減少いたしました。
 原価および販管費 537
 M&Aによる人員増による
 人件費及びのれん償却が
 増加いたしました。

限界利益 / 限界利益率の推移



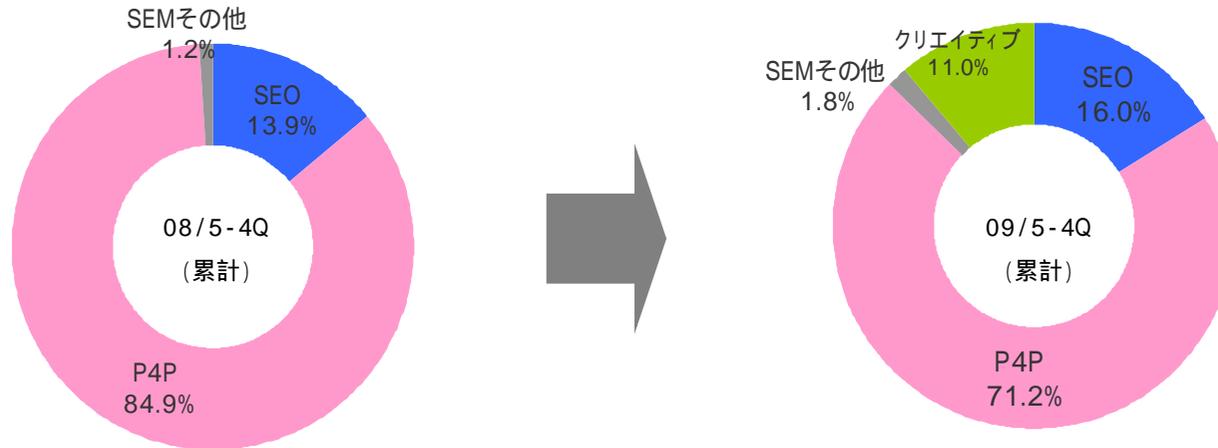
Point

限界利益率向上 +3.5 P
事業ポートフォリオの転換を進めることにより限界利益率が向上いたしました。

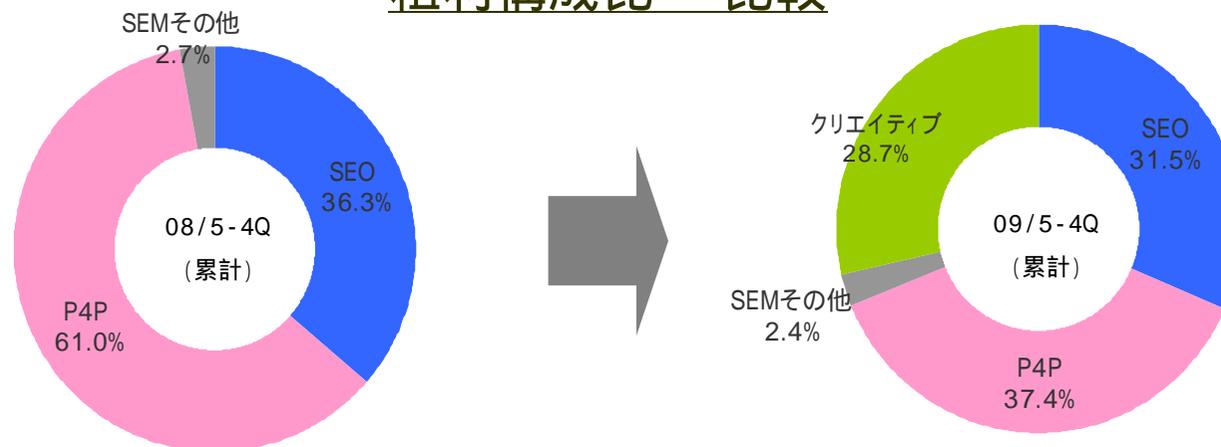


限界利益 = 売上高 - 変動費

売上構成比 比較

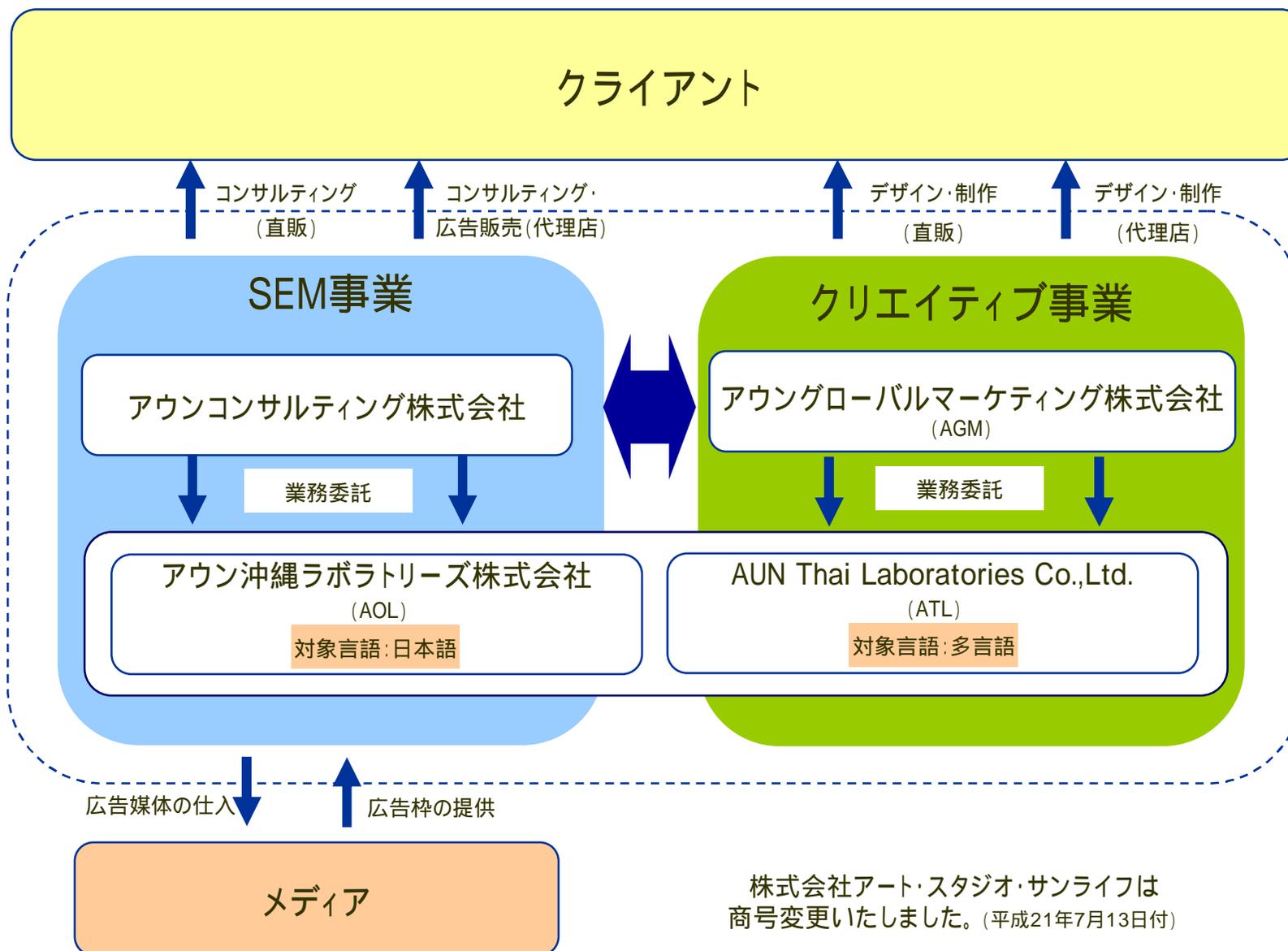


粗利構成比 比較

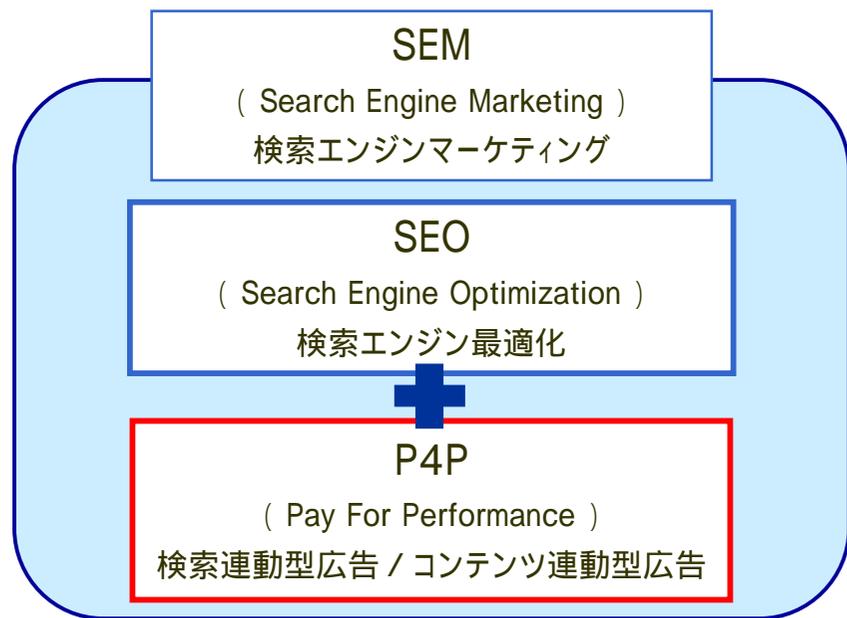


粗利は管理会計ベースの数値(売上-仕入)

【2】 2009年5月期 セグメント別実績



株式会社アート・スタジオ・サンライフは
商号変更いたしました。(平成21年7月13日付)



Yahoo! JAPANの検索結果ページの場合

Point

SEMコンサルティングファーム としての独自の強み

マーケティング戦略全般を視野に入れた
ソリューション

専任アナリストによる徹底した先端情報の
収集

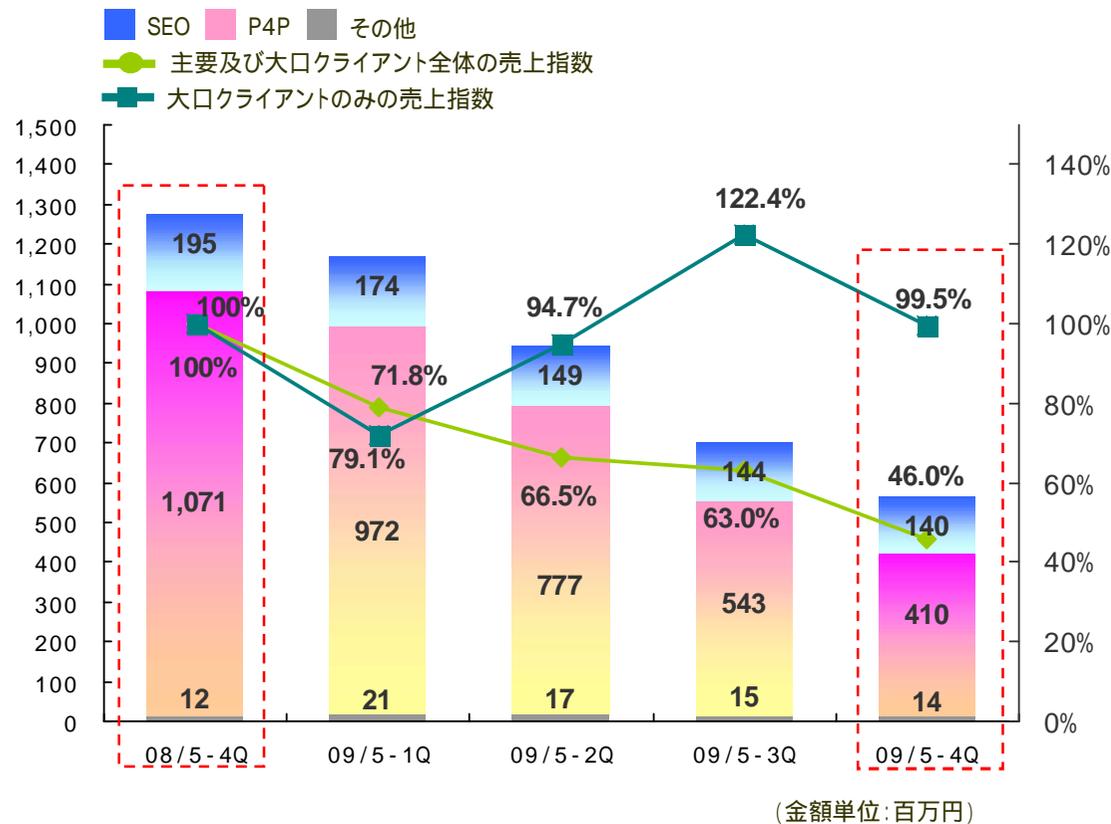
アルゴリズムの分析力と提案力 (SEO)

高い実績を誇る運用コンサルティング (P4P)

SEOとP4Pの専門ならではの SEM最適化提案
コンサルティングモデルによる高利益体質の
確保

チケットサービスモデルによるインハウスニーズ
への対応

売上高推移



Point

主要クライアント及びその他大口クライアント(単価5百万円以上)の売上高ともに減少したものの大口クライアントの受注減少は軽微となりました。

売上高指数について
08/5-4Qを100とし、顧客単価5百万円以上の売上高合計を指数化。



Point

「多言語マーケティング」体制の強化

2008年6月よりグループ会社化

英語・中国語・日本語等において、ネイティブ
コピーライターによる ウェブ/紙媒体制作を
行なう

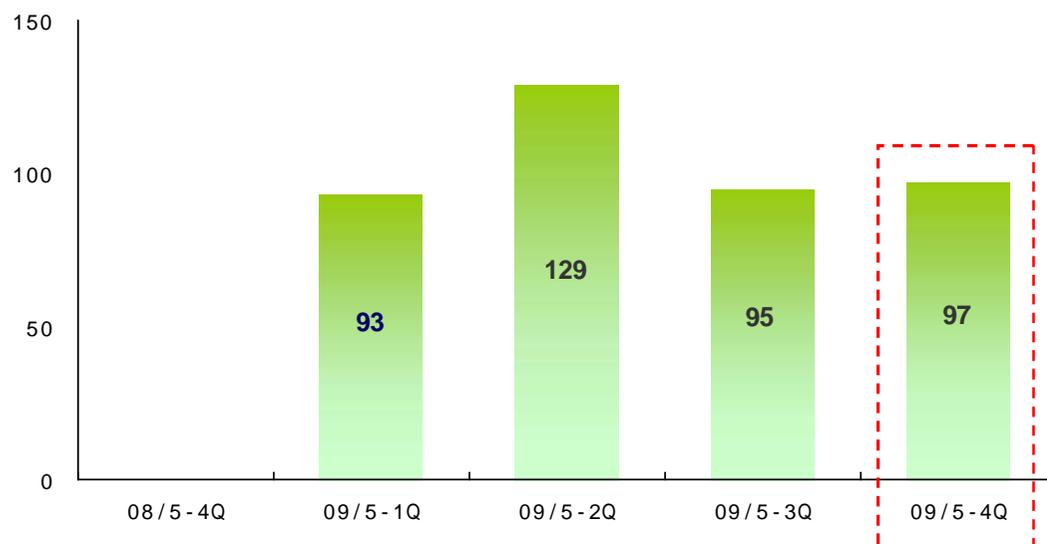
多くのグローバル企業に対してサービスを提供
欧米や中国等における文化の理解を背景に、
英語・中国語における制作においては、国内
トップレベルの実績

既存クリエイティブ事業に翻訳ネットワーク機
能を付加

多言語領域における事業間シナジーがさらに
期待できる体制になる

売上高推移

09年5月期よりアウングローバルマーケティング
(アート・スタジオ・サンライフ社)を連結



(金額単位:百万円)

Point

市況の影響を受け、前期と
同程度に推移しました。

【3】 2010年5月期 通期業績予想と今後の取り組み

株式会社アート・スタジオ・サンライフの商号変更および代表取締役の異動

新商号

アウングローバルマーケティング株式会社 (AGM)

【英文表記: AUN Global Marketing, Inc.】

代表者の異動 (平成21年6月1日付)

代表取締役 兼 代表執行役員 橋川 徹也 (旧役職名) アウンコンサルティング 取締役 執行役員
アート・スタジオ・サンライフ 非常勤監査役

- ・ 当社多言語SEM機能とクリエイティブ機能の連携強化
- ・ 同連結子会社の商号を当社ブランドとの統一
- ・ グループマネジメント体制の整備および強化

多言語マーケティング体制の更なる確立

()は前期比

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
2010年5月期 第2四半期連結 業績予想	1,365 (41.5)	59 (-)	27 (-)	26 (-)
2010年5月期 通期連結 業績予想	3,042 (19.8)	108 (37.4)	140 (68.9)	109 (-)

(単位:百万円 / %)

今後においてはグローバル・マーケティング・カンパニーとして、多言語によるマーケティング戦略全般を提供すべく以下のような点に取り組んでまいります。

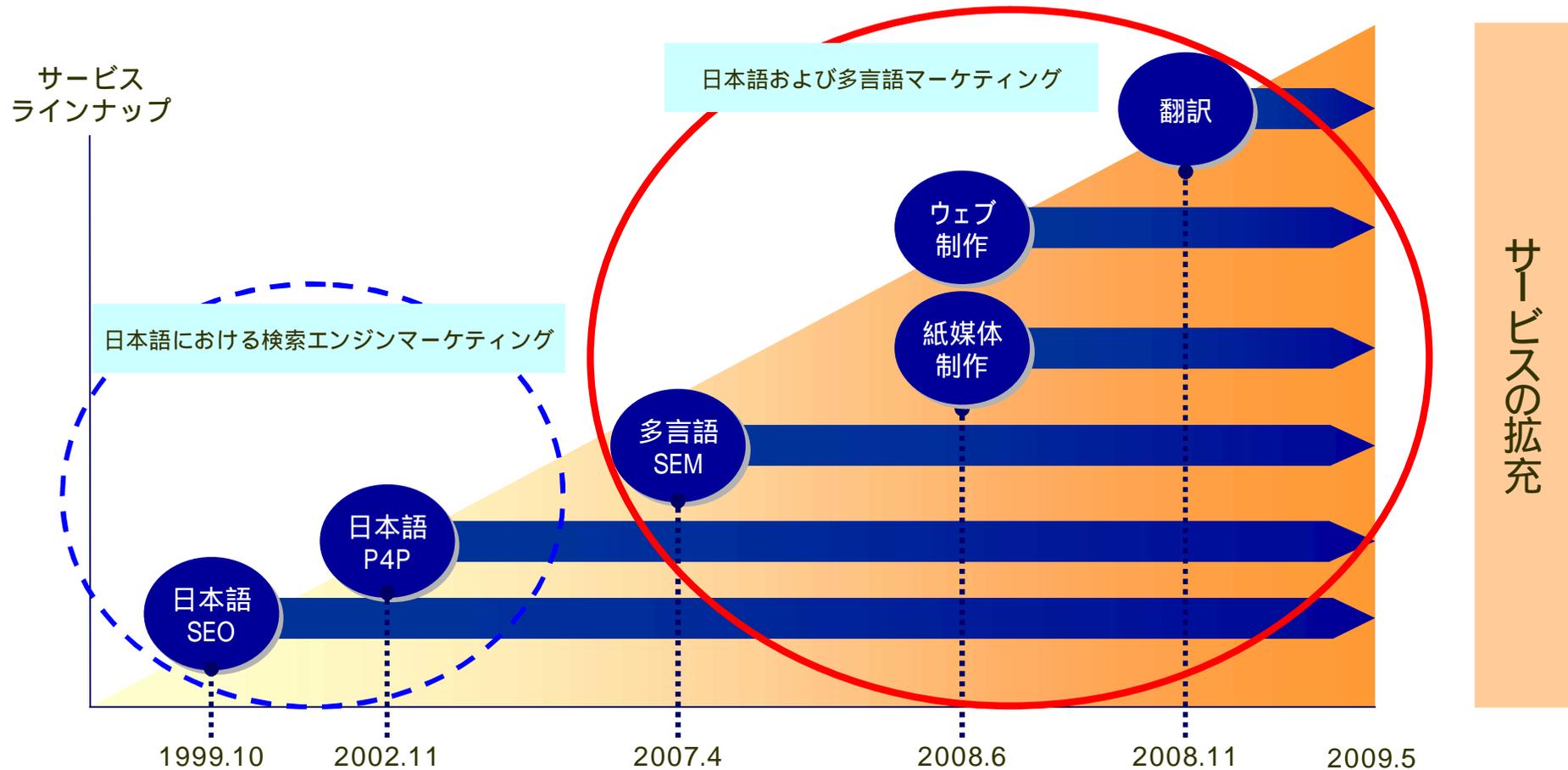
今後の取り組み

1. 事業ポートフォリオ転換
2. トップライン向上
3. ローコストオペレーションの推進

1. 事業ポートフォリオ転換

- ・ SEM事業依存からの転換をさらに進める
- ・ 強みであるSEMのコンサルティング力をコアコンピタンスとしつつ、**周辺事業領域へ進出**
- ・ **ブランディング強化**
- ・ SEM、Web制作に加え、市場調査機能などを充実させ、Webマーケティングの提案力を補完
- ・ 新規事業への投資を継続
- ・ 事業および商品構成の見直しにより**限界利益を向上**

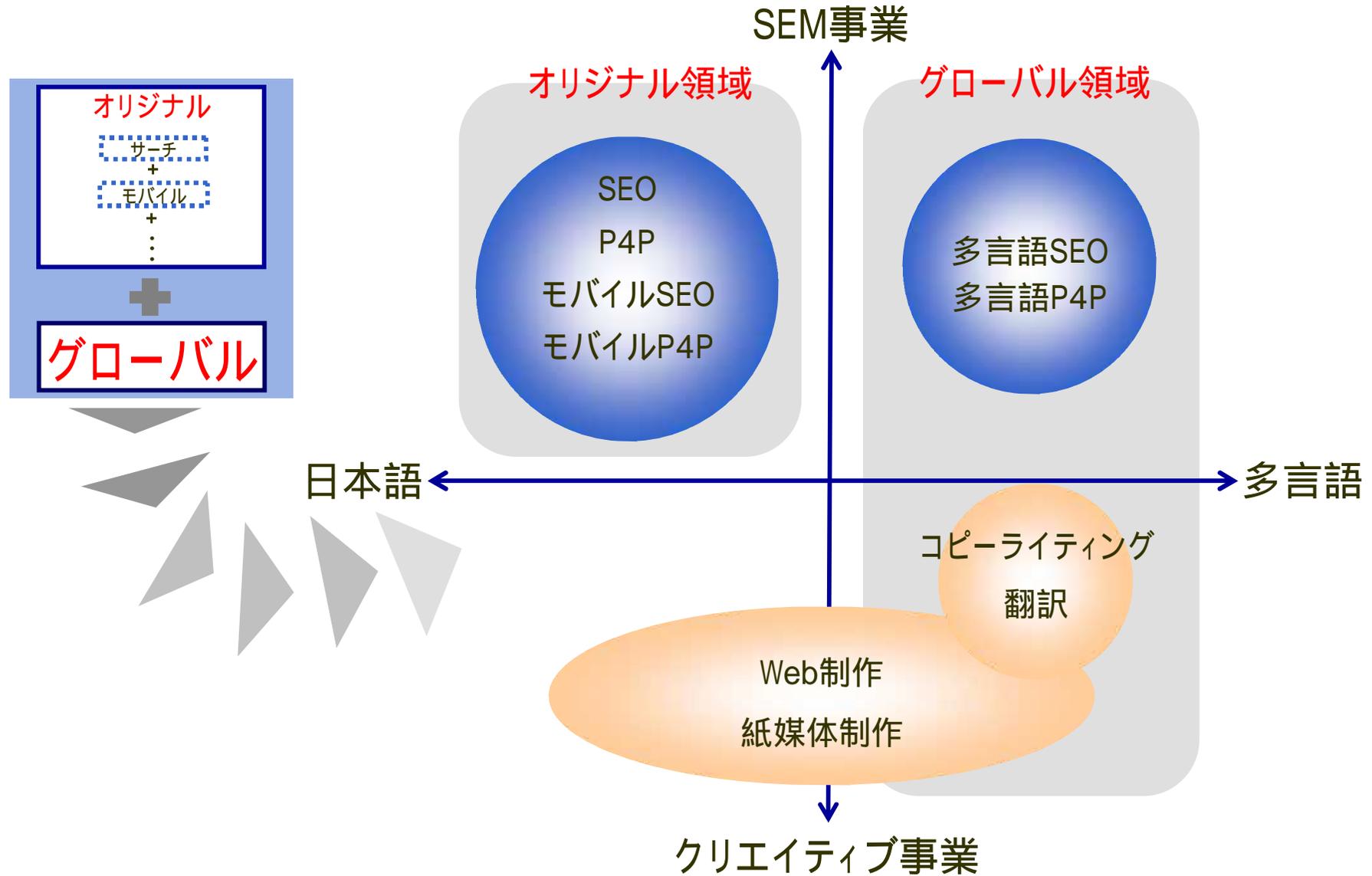
今後の取り組み1 > 「多言語マーケティング」体制の拡充



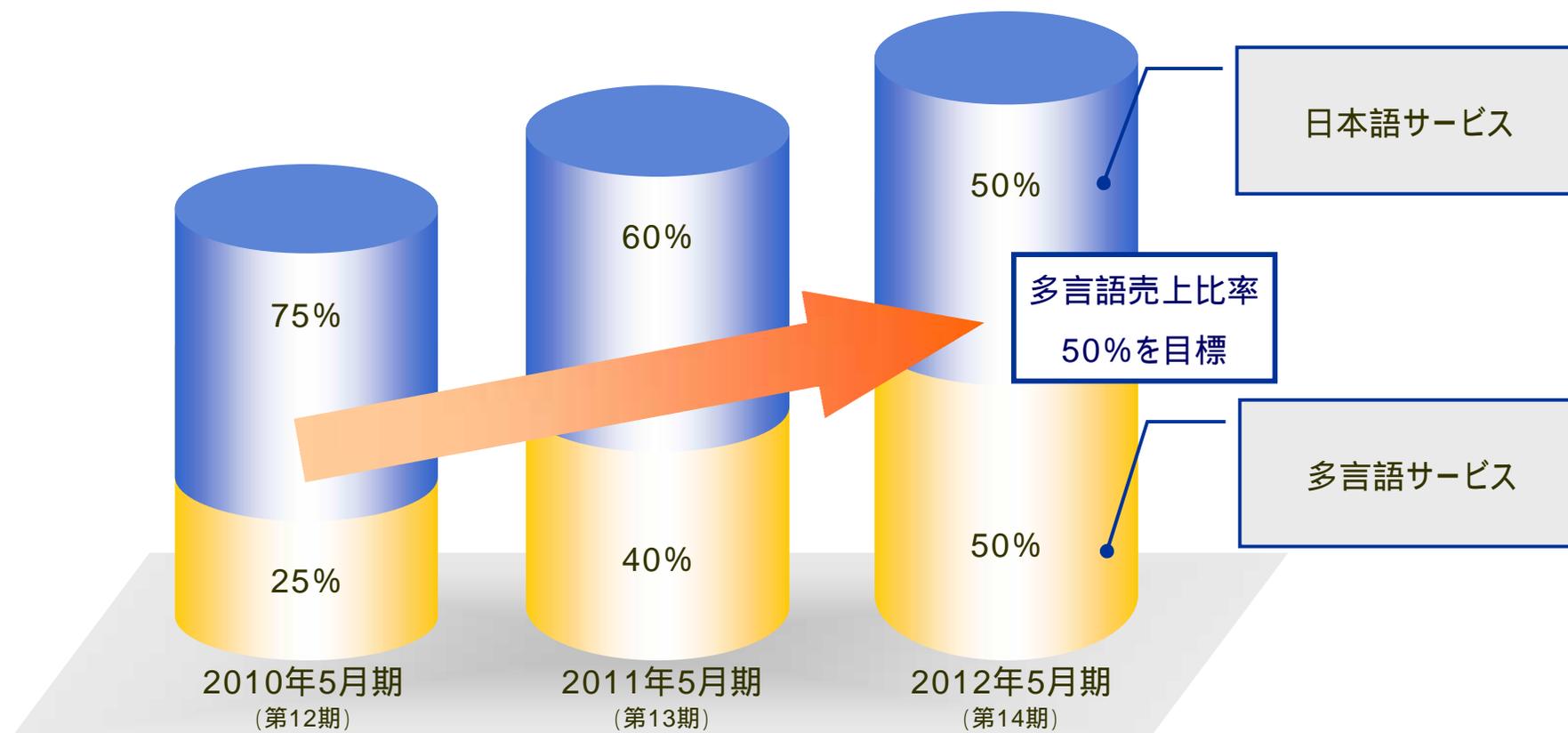
SEM事業に加え、アウングローバルマーケティング株式会社との連携により、多言語領域へのサービスが可能となりました。さらに、2008年11月に株式会社ジーネットワークスの翻訳事業譲受により、多言語マーケティング体制の拡充をはかってまいりました。



- ・ 第10期(2008年5月期)からの「構造改革」を継続推進
- ・ 主軸であるSEM事業をオリジナルとし、サービスの強化
- ・ SEMのリーディングカンパニーとして培ってきたノウハウを活かし
独創的マーケティング手法を開発
- ・ 多言語サービスを拡充し、「グローバル」領域の事業強化



お客様の課題に対して、独創的な考え方で解決を提案。ワンストップソリューションを目指す。



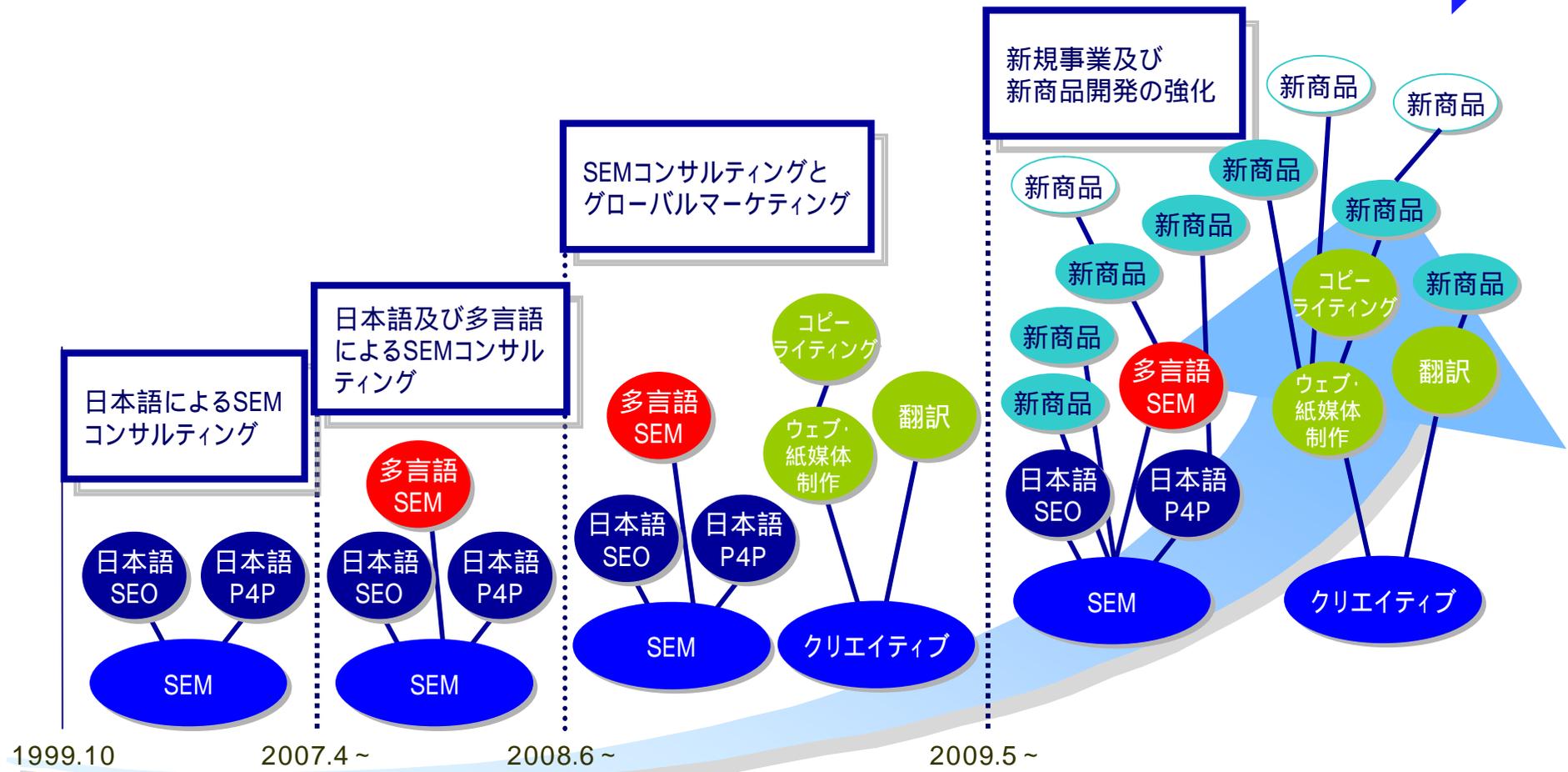
売上高の50%を英語・中国語などの多言語サービスで獲得できるように、事業を展開してまいります。

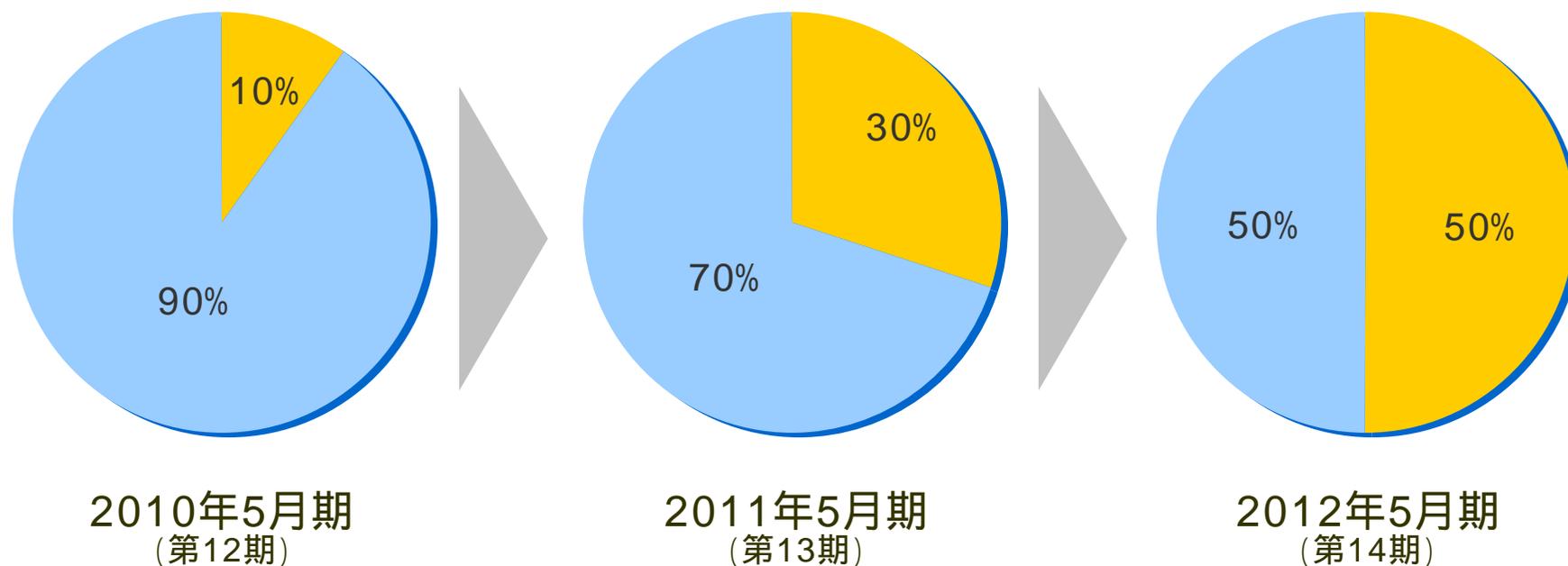
2. トップライン向上

- ・ 大口クライアント(顧客単価5百万円以上)からの受注は**堅調**
- ・ 大口クライアント数向上による**売上の安定化**
- ・ 一部**大口クライアントへの依存を低減**し、分散のきいた顧客ポートフォリオ構築へ
- ・ **販売チャネル拡大**による売上への寄与向上
- ・ **新規事業及び新商品開発の強化**(既存事業依存から脱却)
- ・ SEMコンサルティングの**更なる技術力向上**による差別化
- ・ 社内コミュニケーション拡充(新商品開発のスモールチームを多数編成)

グローバルマーケティング

SEM





- ・ 既存事業への依存体質を脱却
- ・ 内部育成およびM&Aにより新事業および新商品の追加
- ・ 新商品には継続基準を定め、業績への貢献度を判断

3. ローコストオペレーションの推進

- ・引き続き、企業の広告費および販売促進費削減傾向と予測
- ・顧客単価下落傾向に対応する**収益体制の強化**
- ・グループ子会社**AOL、ATLの機能を拡大**しグループのマニファクチャラーへ
- ・AOL、ATLの活用により、**ローコストオペレーション**をさらに推進

AOL・・・アウン沖縄ラボラトリーズ株式会社

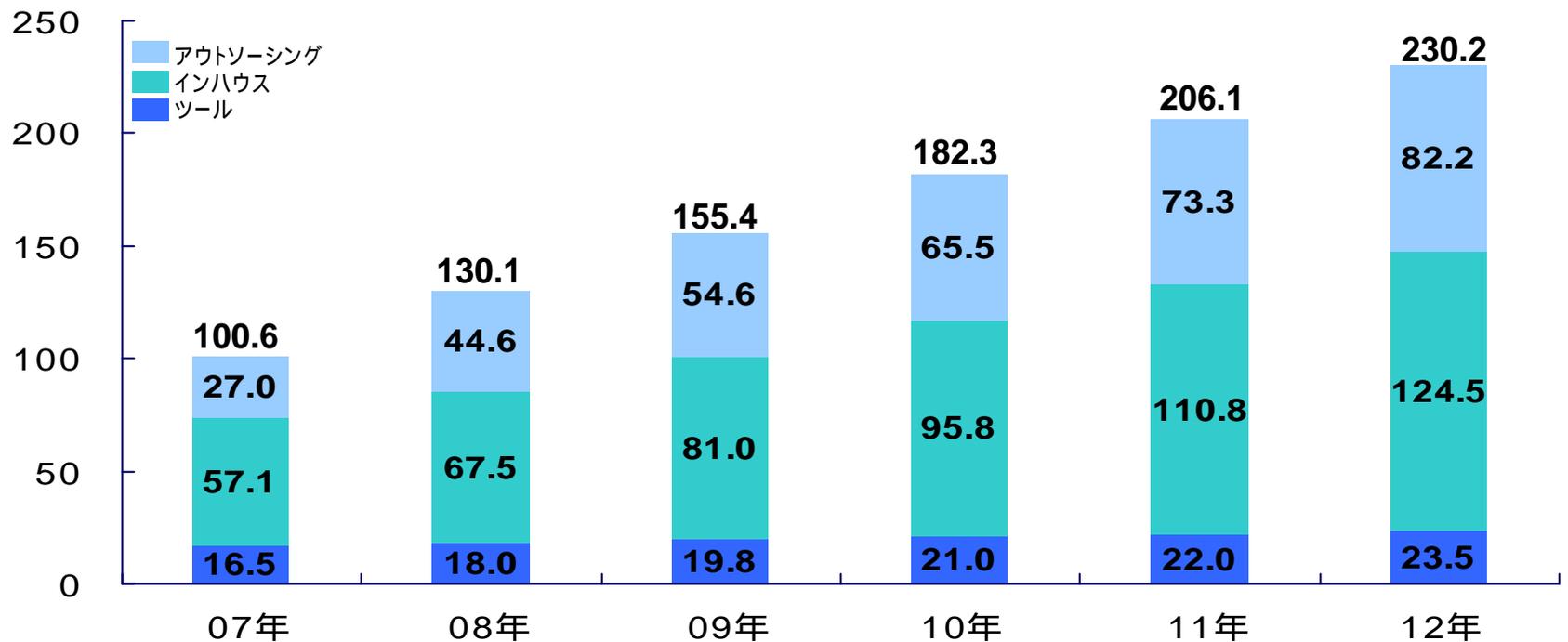
ATL・・・AUN Thai Laboratories Co.,Ltd. (アウンタイラボラトリーズ)

	平均社員数(当期)	人件費指数
東京	71	100.0%
AOL(沖縄)	22	52.6%
ATL(タイ)	8	14.9%

東京の人件費を100として、グループ子会社における人件費指数を算出

卷末資料

設立	1998(平成10)年6月8日	
資本金	339,576千円(2009年5月末現在)	
経営陣	代表取締役 兼 代表執行役員	信太 明
	取締役 兼 常務執行役員	橘川 徹也
	取締役 兼 常務執行役員	棚橋 繁行
	取締役 兼 常務執行役員	坂田 崇典
	取締役 兼 執行役員	工藤 典久
	執行役員	中田 茂樹
	執行役員	宮崎 正
	執行役員	土谷 薫
	執行役員	長島 徹弥
	常勤監査役	中谷 正史
	監査役	加藤 征一
	監査役	松村 卓朗
本社	東京都千代田区三崎町2-9-18 TDCビル6F	
グループ会社	アウングローバルマーケティング株式会社(AGM)、アウン沖縄ラボラトリーズ株式会社(AOL)、AUN Thai Laboratories Co.,Ltd. (ATL)	
社員数	167名[正社員のみ147名・グループ会社含む](2009年5月末現在)	
発行済株式総数	72,428株(2009年5月末現在)	
事業内容	マーケティング分野に関するコンサルティング業	
上場市場	東京証券取引所マザーズ 証券コード:2459 (2005年11月9日 上場)	



(金額単位: 億円)

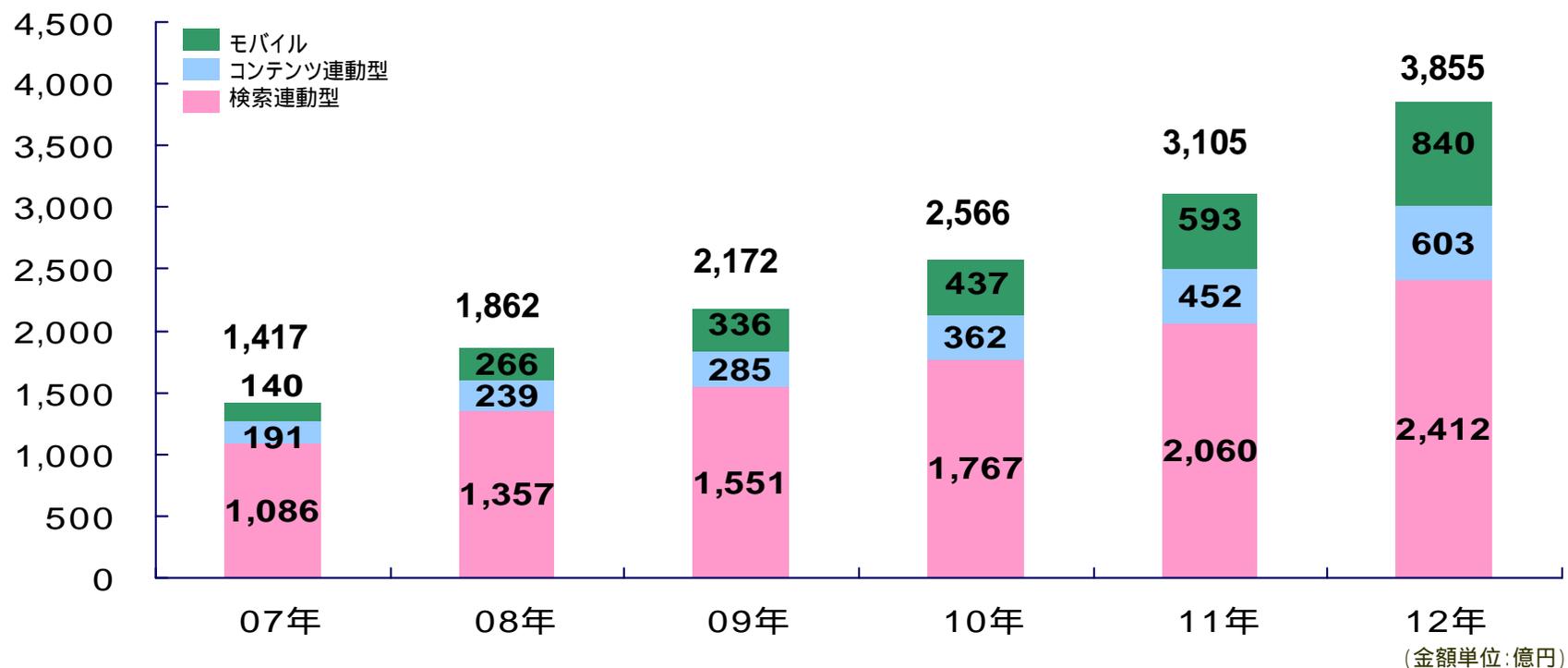
アウンコンサルティング株式会社 調べ(2009年1月)

SEO(検索エンジン最適化)について

2008年の市場130億円規模

2012年には230億円規模へと成長

SEOの認知向上により企業規模を問わず取り組みが加速



アウンコンサルティング株式会社 調べ(2009年1月)

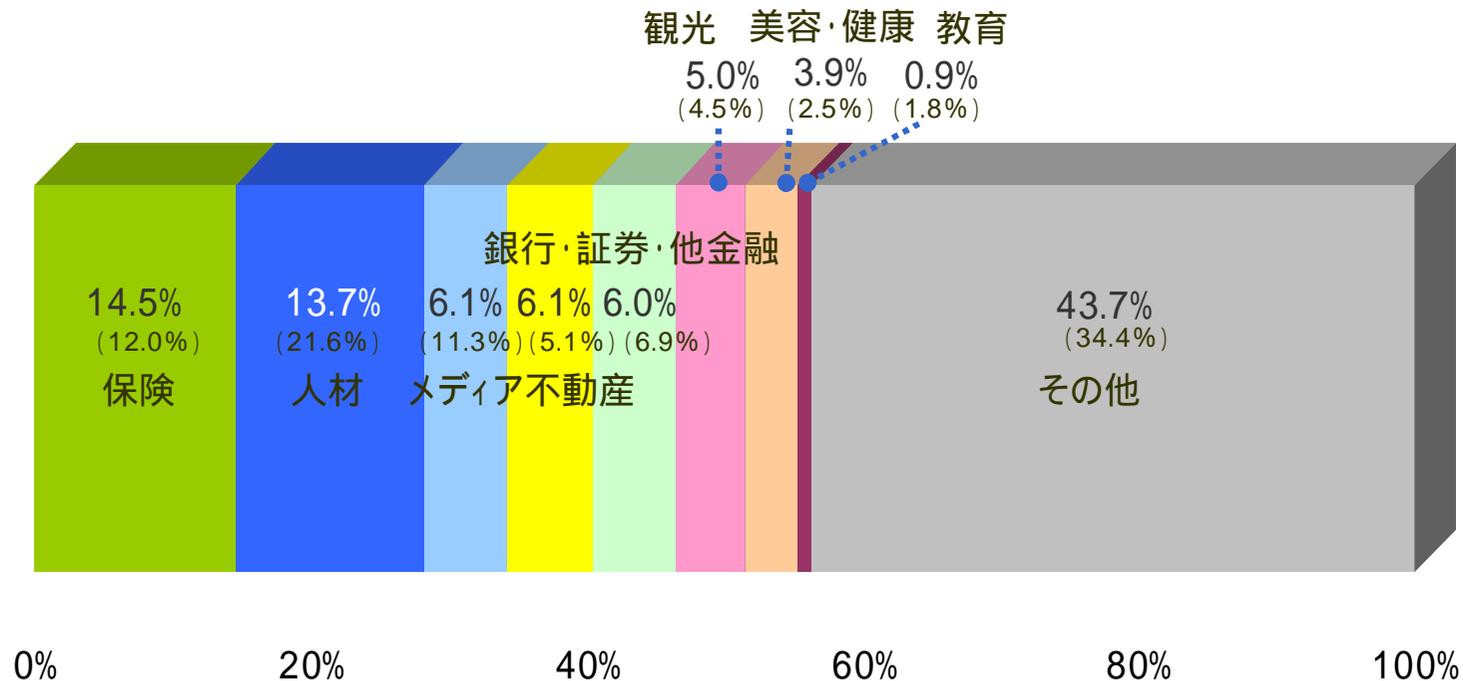
P4P(検索連動型広告・コンテンツ連動型広告)について

2008年のP4P市場は、1,800億円規模

2012年には3,800億円規模へと成長

モバイル向けP4P市場は堅調に推移

2009年3月～2009年5月 顧客業種属性(連結)

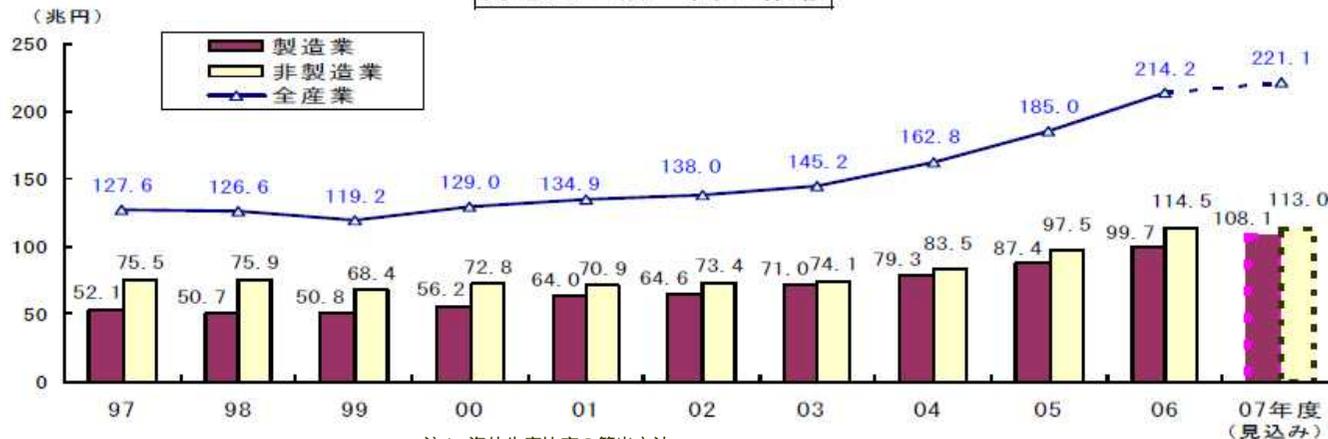


顧客業種動向は「保険」が増加いたしました。

パーセンテージは、09年3月～09年5月における全サービスの売上高をベースとして算出しています。

()内のパーセンテージは2009/3Q(08年12月～09年2月)です。

現地法人売上高の推移



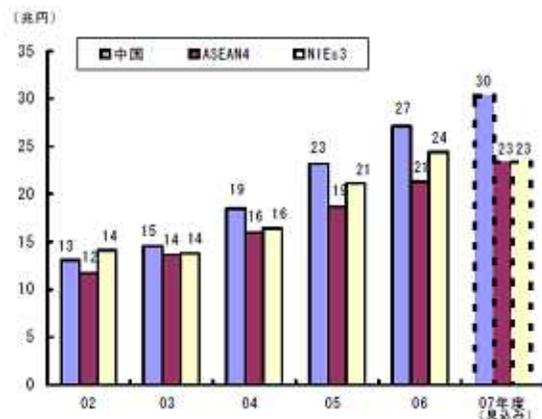
注1. 海外生産比率の算出方法

国内全法人ベース = 現地法人(製造業)売上高 / (現地法人(製造業)売上高 + 国内法人(製造業)売上高) × 100

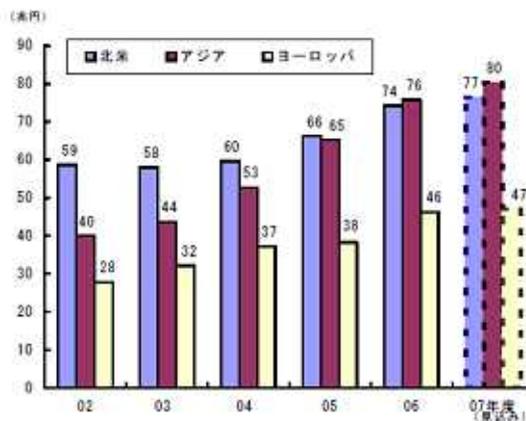
海外進出企業ベース = 現地法人(製造業)売上高 / (現地法人(製造業)売上高 + 本社企業(製造業)売上高) × 100

注2. 2007年度は見込額として調査。また、国内全法人ベースの見込みは経済産業省において試算

現地法人売上高 (アジア)



地域別現地法人売上高



海外売上高は上昇トレンドにある

世界的景気後退により成長は一時的に鈍化するものの、
今後も海外売上高は増加すると推測

出典: 経済産業省経済産業政策局 調査統計部企業統計室 調べ(2008年7月)